

2019年1月16日
JTTRI 都市交通セミナー（ハノイ）
宿利会長 冒頭のご挨拶

おはようございます。一般財団法人 運輸総合研究所 会長 の宿利正史です。本日は、運輸総合研究所主催の『都市交通セミナー「都市鉄道整備と沿線開発」』に多くの皆様にご出席いただき、誠にありがとうございます。

本日のセミナーには、講師として、ハノイ市都市鉄道管理委員会のブイ・ホン・リン氏、日本から筑波大学の教授で、本年3月から日越大学で教鞭をとられる岡本直久氏をお招きし、お二人からそれぞれ基調講演をしていただきます。その後で、日越大学のファン・レ・ビン氏にも加わっていただき、越独大学越独交通研究センターのブ・アイン・トゥアン部長をモデレーターとして、パネル・ディスカッションを予定しております。これらの講師の皆様方に対しまして、お礼を申し上げます。

私ども、運輸総合研究所は、1968年に、日本の運輸省、現在の国土交通省の監督のもと、政府、経済界、学界の協力により設立された、独立した非営利組織です。設立以来、50年間にわたり、政府、学界及び関係業界と緊密に連携しながら、運輸・交通・観光に関する政策や現実の諸課題に関する研究・調査を実施し、運輸・交通・観光政策の企画立案に貢献し、また関係業界のために有益な情報や知見を提供するなど、学術研究と実務的要請の橋渡しを行っております。

また、国際的な連携や国際活動にも力を入れており、特に、我が国と関係が深く重要な貴国ベトナムをはじめとして ASEAN 諸国との協力・連携関係の一層の充実・強化に努めたいと考えています。

本日の JTTRI 都市交通セミナーは、そのような取組みの一環として開催するもので、ハノイ市の皆様をはじめベトナムの交通運輸関係者の関心が高いと考えられる都市鉄道の整備と沿線開発をテーマとして開催するものであります。

さて、ハノイ市では近年都市鉄道の整備が進められており、本年春には最初

の路線が開業する予定と伺っております。今後、さらに郊外への延伸を含む整備計画がある中で、沿線の都市開発と一体的に鉄道整備を行うことで、民間投資を呼び込むとともに、バランスのとれた計画的な都市整備の実現が期待されていると考えております。

ところで、日本の首都東京では、100年以上も前から都市鉄道の整備が進められ、鉄道の整備とあわせてその沿線及び郊外の開発も進められました。

このような鉄道整備と沿線の都市開発は、初期には民間の鉄道会社や不動産開発会社が主導して行われてきましたが、その後、1950年代からは、国が策定する長期的な鉄道整備計画に基づいて都市鉄道の整備が進められ、さらに、行政が関わり鉄道と沿線の開発を計画的・一体的に進める仕組みも導入されることとなりました。その過程において、鉄道が整備されることによって高まる沿線地域の経済的価値をあらかじめ取り込んで、膨大な初期投資を要する鉄道整備を促進させるような制度も考え出されました。

また、この間常に、鉄道経営上重要な乗客の確保のための様々な工夫が積み重ねられてきました。

一方、当地ベトナムでは、都市鉄道ネットワークの整備に先んじて既にモーターバイクが大量に普及しているという、日本が経験してきた状況とは異なる都市交通の状況にあることも事実です。

本日のセミナーは、このような状況を踏まえ、これからのハノイ市における都市鉄道整備と沿線開発の着実な進展に向けて、ベトナム当局者、日越の有識者により、日本における種々の経験とハノイ市における計画や構想などについての講演と議論を通じて、情報共有と理解を深めていただくとするものです。どうぞご期待ください。

なお、本日のセミナーは、多くの関係者のご尽力により開催の運びとなり、この間ご支援、ご協力をいただいた皆様方にお礼を申し上げます。

最後になりますが、運輸総合研究所の活動は、長きにわたり日本財団の財政支援を受けておりますが、本セミナーもその支援を受けて実施するものであり、改めてこの場を借りて、日本財団に感謝するとともに、本日のセミナーが皆様

方にとって有益なものとなりますことを期待しまして、私の挨拶といたします。

(以上)